Report

2020 年「セミの抜け殻調査」報告

アブラゼミの抜け殻
（8 月 3 日、飯田会場）

毎年、7 月末から 8 月初めに行っている自然ふれあい講座「みんなで温暖化ウオッチ ～セミのぬけがらを探せ！ 2020 ～」は、新型コロナウィルス感染拡大防止のため中止とさせていただきました。ただ、このイベントは、セミの抜け殻調査（数や種構成のモニタリング）も兼ねていました。そのため、今年については、いつもと同じ会場で、毎年イベントをサポートしてくださっている方々と研究所スタッフのみで 8 月 3 日（月）、4 日（火）、7 日（金）の 3 日間、実施しました。

今年は、関東甲信地方の梅雨明けが平年よりも 10 日ほど遅く、8 月 1 日ごろでした。私たちは、このモニタリング調査を、飯田、上田、長野では 2012 年から、伊那、松本、大町では 2013 年からはじめていますが、今年が最も遅い梅雨明けだったと思います。当然、セミたちの羽化もそのような気象の影響を受けていると思われます。

今年、いつものように 40 分程で集めることのできたセミの抜け殻の数は、どの会場も少ない傾向にあり、特に飯田会場ではこれまでで最も少ない 58 個でした。昨年はどの会場もかなり多く集まり、飯田会場では過去最高の 640 個でした。このような違いが気象条件によるものなのか、あるいは他の要因が影響しているのかについては、もう少し踏み込んだ研究をする必要があります。

私たちは、各会場でセミの抜け殻の種構成に変化が見られるかどうかを長期的に見ています。その点では、今年はどの会場でも、ここ数年の傾向とあまり変わりはなかったように思います（図）。

このモニタリング調査は、セミの抜け殻調べを通じて環境の変化や地球温暖化のことを少しでも多くの方々に考えてもらうことも目的にしています。子供たちや親御さんと楽しく一緒に行うことにも意義があると考えています。来年以降、再びイベントとして実施できることを願っています。

（堀田 昌伸／自然環境部）

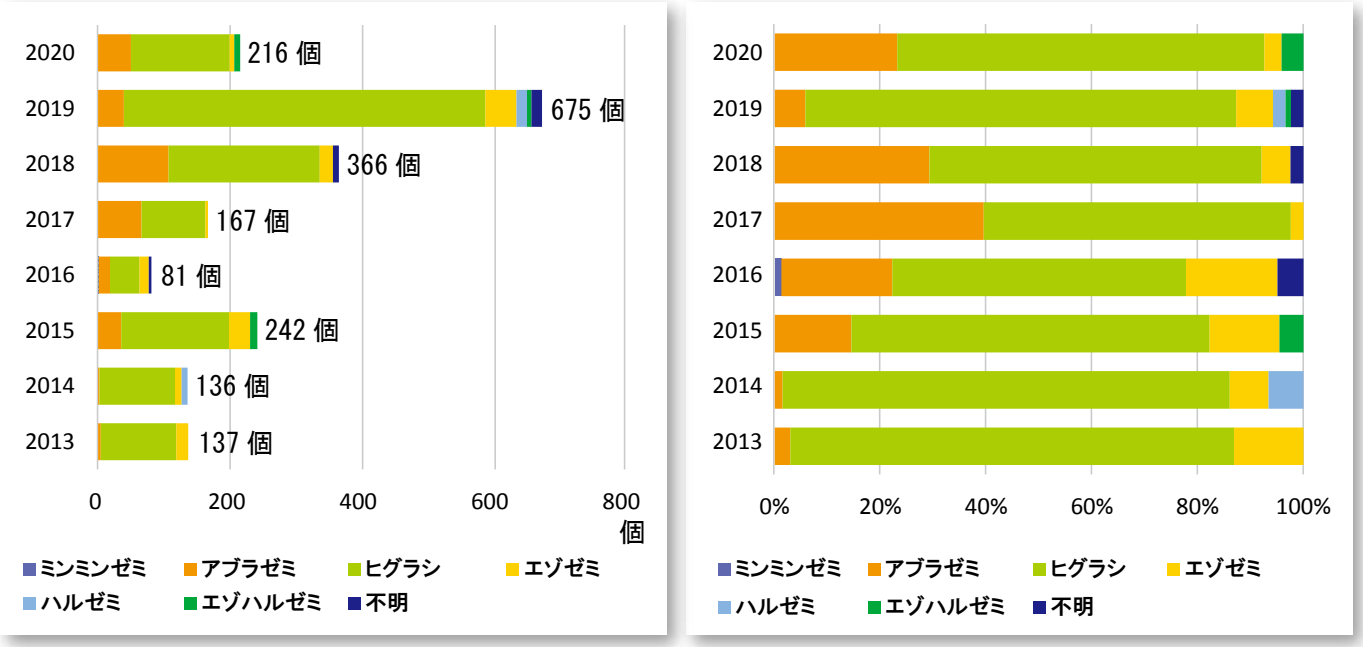

図　抜け殻数や種構成の経年変化（ヒグラシが多い伊那会場）（左；個数／右；割合）